

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 3

H28. 6.1



今月のキーワード

変化のある繰り返し

英語の感覚

“繰り返し” に ひと工夫！

英語の学習には、繰り返し学習が不可欠です。しかし、子どもたちが「またこれか～」と
思ってしまう活動ではなく、「英語って楽しいな」「次の英語の時間ではもっと～できるよう
になりたいな」と学習意欲を高められるような活動を取り入れたいものです。

そのために、反復練習でも少しだけ変化を持たせ、無意識のうちにたくさん活動している、
そして少しの積み重ねが大きな英語の力につながるような活動を考えてみましょう。

例えばビンゴ！ 小学生も中学生も大好きですね。通常は dog cat panda koala
rabbit などの単語（または絵）が記入されたビンゴシート（視点1）を使って、先生が発音した単
語を☑していく（視点2）ビンゴゲーム。少しアレンジしてみると・・・

（視点1）シートの作り方の工夫

- 先生が発音した動物の単語を聞いて、日本語（または絵）を空欄に自由に書き込んでビンゴシート
を作成する方法。

（視点2）先生の発話の工夫

- 単語の最初の文字の音（おん）を先生が言う方法（例 pプツ）。→ その後、Pの音（おん）を
含む単語や絵（panda）に☑する。
- 英文（例 I have a cat.）を言って、文中に含まれている単語（この場合 cat）を☑する方法。
- The cat under a dog など、前置詞を使って動物を説明し、該当する動物に☑を入れていく方法。
＊活動の目的や児童生徒の実態に合わせてビンゴシートは作成しましょう。NHK 基礎英語（参考）



「あれ、この前と少し違うぞ?!」と感
じることで、興味関心が高まり、
無意識のうちにたくさん英語を聞いたり、
思考する活動になっていることが
理想ですね！



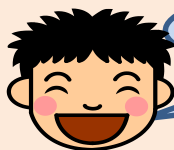
会話を通して英語の感覚を身に付けさせましょう



中1 初期に慣れさせたい会話例

You are not a bad student , are you?

(君は、悪い子じゃないですよね?)



No, I' m not. (はい 違います!)

※ **No, I' m not. (I' m not a bad student.)**

もともとある文を加えて考えると分かりやすい。

この場合、日本語の「はい」は、英語では「No」と表現します。このような会話は、一語一語訳して理解するよりも、会話を通して慣れることで、自然に身に付くものです。

是非、中学校では1年生の早い段階で、この英語の感覚を身に付けてほしいと思います。また、小学校でもALTと(Q: **You don' t like natto? A: Yes, I like it.**) など、簡単な会話で体験させることができます。意図的にこのような場面を作ってみてはいかがでしょうか。

中学校では、文法(Be 動詞)の理解をさせることも大切ですが、「実際に活用できるようにすることを目指すこと」が大切です。

小学校では、「児童の柔軟な適応力を十分生かし」「日本語との違いや言葉の面白さに気付かせる」ことができるとよいですね。(「」は学習指導要領より)





ホット一息



今日、外国語活動の時間に、数の勉強をしたよ。英語数える時は

One book , two books , three books ・ ・

One cat , two cats , three cats ・ ・ って言うんだ。

日本語の「冊」とか「匹」を表す英語はないんだね〜。



※ 授業の振り返りでは、このような気づきを!